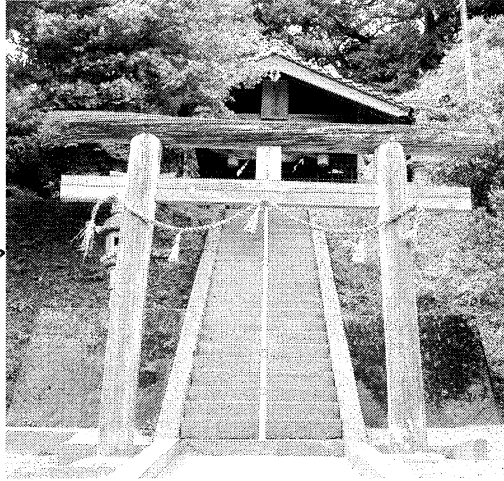


窪田ふるさと探訪 No.1

けづじんじゃ

毛津神社



記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

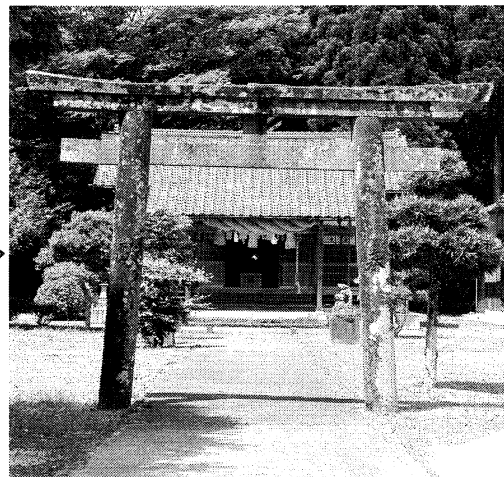
所在地 佐田町毛津453
祭神 須佐之男命、稲田姫命
例大祭 11月2日
由来 創立年代不詳。雲陽誌には大歳神社とあり、明治11年取調べでは毛津神社(村社)とある。例大祭に行われる当社の特殊神事「御崎立神事」は、祭神が熊ヶ丸(丸子山)の大蛇を退治された古事にちなむ。所有する棟札で一番古いものは宝暦四年(1754年)。

コメント 境内には全国でも有数のシダ椎の巨木があり、鬱蒼(うっそう)たる鎮守の森を形成しています。毛津神社をネット検索するとヒットする情報も数多くある為か、先日も見知らぬ参拝者が巨木をバックに自分撮りする姿を見かけました。

窪田ふるさと探訪 No.2

さんしょじんじゃ

三所神社



記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

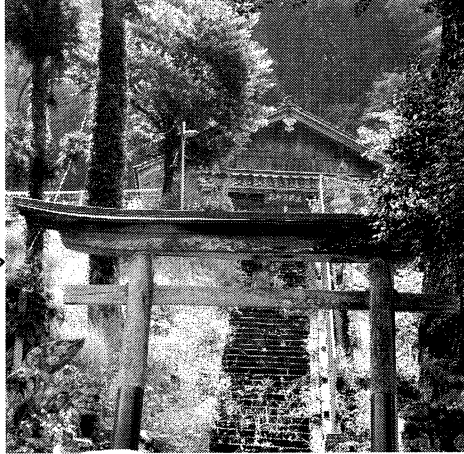
所在地 佐田町一窪田1228
祭神 伊邪那美命、
速玉男命(スサノオノミコトの別称)、
事解男命(コトシロヌシの別称)
例大祭 10月17日
(近年は10月第3日曜)
由来 創建年代不詳。雲陽誌に「栗原といふ所に本社あり。延宝3年(1675)造立棟札あり」とある。「三所」とは3柱の祭神という意味。紀州熊野権現の信仰といわれ、更にその元は熊野

大社(八雲町)との説がある。例大祭の神事では浦安の舞がある。
コメント 例大祭では2つの神楽団体による奉納神楽、奉賛会による神事花・もちまき・子供みこし・巨大獅子引きなども行われる。屋台も5店舗出店され、窪田界限では屈指の賑わいである。

窪田ふるさと探訪 No.3

はすわじんじゃ

波須波神社



記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

所在地 佐田町下橋波172

祭神 オオトノヂノカミ 意富斗能地神、オオトノベノカミ 大斗乃辨神

例大祭 11月第2土曜日

由来 祭神はかみよななよ神代七代の五代目に当り、この神を祭る神社は全国で唯一とされている。出雲風土記によれば西暦300年頃に宮之部鋏吉に鎮座、現在地には元亀3年(西暦1572年)10月29日に再建とある。郷社であり、伊秩郷最古の社である。

創建当時、当地は神門郡の入口にあたる郡境であったので「辺境や出入口を守る神」とされる祭神を祀ったと言われる。

コメント 例大祭では神楽保存会による奉納神楽や、露店も2軒あり賑わう。また元旦マラソンは年明けと共に神社をスタートする日本一早いマラソン大会で今年28回目となった伝統行事である。

窪田ふるさと探訪 No.4

くまのじんじゃ

熊野神社



記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

所在地 佐田町高津屋146

祭神 イザナギノカミ 伊弉諾神、イザナミノカミ 伊弉冊神、コトサカノヲノカミ 事解之男神

例大祭 11月第2日曜日

由来 雲陽誌に「神職家譜を紛失して来歴詳らかならず」と記す。社伝によると今から800年前に村人が紀州熊野権現に参詣し、勧請したものと言う。例大祭の奉納神楽は、みどり神楽保存会に依頼される。

コメント 神社は国道184号からはるかに高い杉木立の中に見晴らしが良い。氏子さんは少数ながら敬神の念篤く、神社の護持に努力されている。また、社務所では自治会の常会が毎月開かれていることもあり、住民の生活の場に溶け込んでいる。

窪田ふるさと探訪 No.5



いぢちじんじゃ

伊秩神社

記事

出雲市文化財調査協力員

秦 高義さん



所在地 佐田町佐津目337

クニサツチノミコト

祭神 國狭槌命

例大祭 11月6日(明治頃から変わらず)

由来 創立年代不詳。祭神は天地創造の神と言われている。本殿は江戸時代に造営されており貴重な文化財である。所有する棟札で一番古いものは永禄二年(1559年)。また、側社・六社明神の棟札も古くは元龜三年(1572年)のものがある。

コメント 当社は昭和23年の町村合併を境に、2市をまたぐこととなった佐津目地域の氏子によって護持されている。例大祭では地元の神楽保存会による神楽が奉納されているが、子どもの減少により今後の存続に苦勞されている。

窪田ふるさと探訪 No.6



さづちじんじゃ

狭槌神社

記事

出雲市文化財調査協力員

秦 高義さん



所在地 佐田町東村794

クニノサツチノミコト

祭神 國狭槌命

例大祭 10月第2土曜日

由来 創立年代不詳。雲陽誌には承応2年(1653年)建立の社とされているが、田邊宮司により弘治3年(1557年)12月3日付の棟札の写しが保管されている。祭神は土地を支配する神であり、田や農耕の神として住民から親しまれている。

コメント 例大祭には神事華と神楽の奉納がある。今年は初となる夜の余興が若者会により開催された。本殿と拝殿は平成になってからの建替えにより新しい。お盆の夏祭りでは、地元有志による屋台やカラオケ大会があり、神社は住民憩いの場となっている。

窪田ふるさと探訪 No.7

はちまングう

八幡宮



記事 出雲市文化財調査協力員 秦 高義さん

所在地 佐田町八幡原228

祭神 オキナガラシヒコノミコト 氣長足彦命(14代仲哀天皇)、
オキナガラシヒメノミコト 氣長足姫命(14代天皇の妃)、
ホンドワケノミコト 誉田別命(15代応神天皇)

例大祭 10月第4日曜日

由来 創立年代不詳。古伝によると応永29年9月に勧請されたとある。現存の棟札は享保13年(1728年)のものから昭和37年(1962年)に至る16枚が所蔵されている。安永5年(1776年)

の棟札には“下郡：三木與兵衛”との記載があり、毛津神社の棟札にもこの人物が記載されている。関連については不明である。

コメント 本殿後方にケヤキの巨木があるほか、イチヨウの木などの大木に囲まれた境内です。例大祭では八乙女舞の奉納、子ども神輿、神事華、地元有志の屋台があつて大変賑やかでした。

窪田ふるさと探訪 No.8

あしたかじんじゃ

足高神社



記事 出雲市文化財調査協力員 秦 高義さん

所在地 佐田町一窪田
(原川公民館の裏)

祭神 アダカヤヌシタキキヒメノミコト 阿陀加夜奴志多伎喜比売命

例祭 4月第2日曜(元は4月11日)

由来 創立年代不詳。祭神は、県内では阿太加夜神社(東出雲町)・多伎神社(多伎町)・多伎芸神社(多伎町口田儀)・市森神社(稗原町)等に祀られている。出雲国風土記によると大穴持命(=大国主命)の御子神とあるので、出雲大社との関係で吉栗山へ勧請されたと思われる。(福谷行真氏談)

コメント 本殿は原川公民館の真裏に位置しており、一見するとその存在に気づきにくい。公民館の建物が拝殿の役割も兼ねているらしい。平成14年の屋根の葺き替えは自治会にて行われていることや、例祭には住民全員が参加することから、原川自治会において手厚く信仰されていることが伺える。何故「足高神社」と言われるかは不明。アダカヤがアシタカに転訛したものか？

窪田ふるさと探訪 No.9

かなやごじんじゃ

金屋子神社



谷自治会主催となった。〔最盛期には100軒以上の住宅が軒を連ねていた。水田には「大山窪」と呼ばれるたたら跡と推定される場所や石組みの穴等がある。(山崎順子氏談)〕

コメント 山内一帯は神仏が多数祀られていることから、たたら操業というものは難業であったことが伺える。「加賀谷」と「奥田儀」とは遠く離れていると思っていたが、地図で見ると山を挟んで真正面に位置しており、直線距離約4kmという近さであった。

記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

所在地 佐田町一窪田(加賀谷)
祭神 金屋子神(=たたら守護神)
祭礼 3月3日(現在は3月最終日曜)
由来 文久2年(1862年)、田儀櫻井家により、たたら操業を「奥原たたら(山口村)」から加賀谷へ移した際、神社も移転された。明治15年(1882年)たたら廃業後は一帯の土地を買受けた山崎家により神社の管理・行事が引き継がれた。以後山崎家が祭主を務められたが、昭和30年頃から加賀

窪田ふるさと探訪 No.10

にいしじんじゃ

仁石神社



ら城川石場線を約500m登った右手の山中に在る。幅が約2mで50段もの石段の途中には「仁石神社」と神額を掲げた高さ約3mの木製の鳥居がある。境内正面には6畳ほどの拝殿、その奥6段の石段の先にこぢんまりとした本殿がある。また周囲にはシイの大木が数本あり、鎮守の森を形成している。祭神は西園の長浜神社の祭神と同一であることと、長浜神社の別名が妙見神社であることから、両社は関連があると思われる。

記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

所在地 佐田町一窪田(共和・石場付近)

ヤツカミズオミツノミコト

祭神 八東水臣津野命

(出雲国土の生成・創成の大神)

祭礼 11月15日

由来 創立年代不詳。言い伝えなど不明。神社の通称「妙見さん」。境内に八重山神社(=牛の神様)が祀られたほこらがある。仁江・石場・共和の3自治会によって護持されている。

コメント 神社は国道184号から

窪田ふるさと探訪 No. 11

やえやまじんじゃ

八重山神社



記事 出雲市文化財調査協力員 秦 高義さん

所在地 佐田町一窪田(豊田自治会)

祭神 ^{イザナミノミコト}伊邪那美命、^{アマテラススメオオカミ}天照皇大神、^{タケハヤスサノオノミコト}須佐之男命 等7柱

祭礼 6月の日曜

由来 明治25年、牛馬の守護神として崇敬されている八重山神社(掛合町入間)より分祀された。分祀当時は周辺自治会の住民も関わっていたが、現在では豊田自治会のみで護持されている。境内周辺は広い原っぱ

で旧窪田小学校の遠足でも利用され、当時はここから校舎を眺めることができた。《岸茂利氏談》

コメント 境内までの山道は幅員が広く、現地まで車で行くことができる。十数段の石段を上がると広い境内があり、正面に本殿が鎮座している。昭和30年代頃はどの家でも農耕用に牛を1～2頭飼っており、原っぱは大切な牧草地であった。現在は草木が生い茂っていて往時が懐かしい。

窪田ふるさと探訪 No. 12

すがたみさきじんじゃ

菅田御崎神社



記事 出雲市文化財調査協力員 秦 高義さん

所在地 佐田町一窪田(菅田自治会)

祭神 ^{サルタヒコノカミ}猿田毘古神

祭礼 半夏生頃(今年は7月2日)

由来 創立年代不詳。この祭神の石碑は村境に建てられることが多く災いの進入を防ぐ神として知られていた。農業と結びつくことで豊作・子孫繁栄の神へと転じていった。境内には大山津見神を祀った「大山さん」、牛馬農耕の守本尊「馬頭観世音菩薩」の祠(ほくら)もある。

コメント 本殿は菅田公民館の敷地内にあり、そのすぐ前には銅版製の鳥居(吉川登氏等作成)がある。鳥居の神額には「御先神社」とあるが、祭神が天孫降臨の際に地上を道案内した神であることからこの名称表記も可。菅田自治会の住民により護持されている。

窪田ふるさと探訪 No. 13

あきばじんじゃ

秋葉神社



記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

所在地 佐田町八幡原(和江島)

アキハゴンゲン

祭神 秋葉権現 (=火やカマドの神様)

祭礼 7月23日

由来 創立年代不詳。当初八幡原地内の数軒によって祭神を勧請したとされる。石造りの社は秋葉山の山頂にある。現在の祭りは八幡原川振興協議会が主催。毎年7月23日に盛大に開催され、八幡原橋にはたくさんの提灯が飾られる。

コメント 秋葉山の山頂にある境内までの道のりは大変険しい。境内は八幡原や反辺地内を一望できる位置にあるが、樹木が繁っていて確認することはできない。また境内には雨坪もあり、今年の8月は雨が降らず困っていたところ、どなたかがこの雨坪に触れたようで、26日頃から恵みの雨が降りました。

窪田ふるさと探訪 No. 14

みかづきじんじゃ

三日月神社



記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

所在地 佐田町東村(草木谷)

ツクヨミノミコト

祭神 月読命 (=三日月大明神)

祭礼 8月最終日曜

由来 天保7年(1837)の大飢饉の際、草木谷の「宇平」という百姓が山中で食糧となるエノコ(葛の根)を掘っていたところ、古鎌のようなものが出てきた。狭槌神社の神主によると月読命であり、宇平の正直さに神意が動き集落を救うため出現されたとのこと。

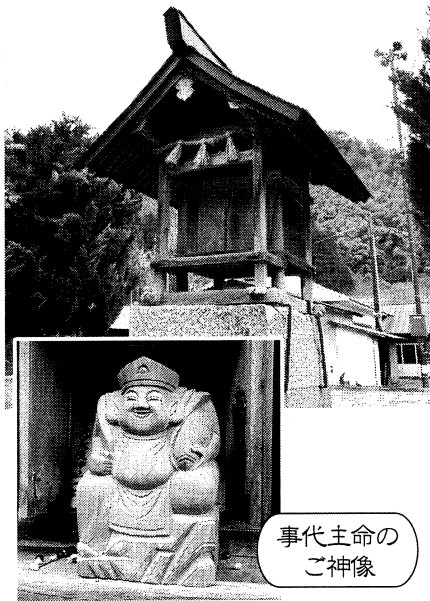
早速草木谷の人々によって祠を建て祭ると、豊作が続き集落は安住の地となった。現在神社は宇平の末裔を中心に護持されている。

コメント 境内は林道から山手崖上7~8mにこぢんまりした本殿があり、その前に6畳程の拝殿があって境内はよく草刈り等の手入れがされている。なかなか管理が大変であろう。また本殿脇には草木谷の山奥(高畑)から移された観音様も祀られている。

窪田ふるさと探訪 No. 15

えびすじんじゃ

恵美須神社



事代主命の
ご神像

記事 出雲市文化財調査協力員
秦 高義さん

所在地 佐田町一窪田1228
(三所神社の境内)

コシロヌバコト

祭神 事代主命 (通称恵美須さん)

由来 所有する棟札によれば勧請は明治3年とあり、石工によって町三叉路傍の旅館「戎屋」(現在の「えびす公園」)の庭に勧請されたと言われている。また大正4年と記された再建の棟札によると、願主は山本萬五郎氏と記載されている。近年になり地元住民により三所神社境内に移された。現在は2自治会(錦・栄)によって護持されており、8月にお祭りが行われている。